

8-4-35 環境配慮専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 環境配慮専門委員会の開催

専門委員会は11回開催した。

(2) 環境配慮に関する企業アンケートの実施

2019年4月に「企業代表者・事務局」及び「技術者」を対象として、業務における環境配慮、環境配慮経営、SDGsへの取り組みなどに関するアンケートを実施した。88社の企業代表者、540名(85社)の技術者からの回答による集計結果を報告書として協会ホームページに掲載した。

(3) マネジメントセミナー

セミナーでは、「環境配慮経営に向けて～SDGsを軸とした環境配慮の展開～」をテーマとして、環境配慮に関する国際的潮流と国内動向、環境配慮経営の実態、持続可能な地域づくりの事例について説明した。

2020年から始動する「パリ協定」、SDGsの潮流を受けて、国内で「持続可能な循環共生型社会」を目指し、環境、経済、社会の統合的向上を具体化することや気候変動適応法にもとづく取り組みを説明した。次に「環境配慮経営の実態」として企業アンケート結果から、会員企業の環境配慮経営の捉え方や活動状況、SDGsの認識度や取り組み内容などについて説明した。

さらに、持続可能な地域づくりの事例として「グリーンスローモビリティ」、「自治体SDGs(十津川村)」、「スマートシティ(SST)」を紹介した。これらは、地域における環境、経済、社会の向上を目指した取り組みである。このような事例は多様な関係者と連携しながら、調査、計画、設計、維持管理、事業運営を進めていく必要があり、建設コンサルタントが得意とする技術領域である。最後に、新中期行動計画に提示された「環境配慮経営の実践」に関する情報を提供していきたいと述べた。

(4) 「環境配慮の手引き2019」の作成

「4. 環境関連情報リスト」に掲載した情報のリンク先の更新及び最新情報を追加し、「6.

IS014001の視点からみた環境配慮事例の総括」の事例を追加して2019年版として改訂した。

(5) 環境配慮経営やSDGsに関する現地見学

11月には、環境に配慮した社会貢献活動と企業価値向上を目指し「キタイSDGs宣言」を掲げたキタイ設計㈱を訪問し、ため池法面でホップを育てる活動の経緯、SDGsを行うメリットなどを聞いた。また、三重県多気町では、事業主体である「勢和はぐくみ協議会」が行う農村企業連携に関するモニターツアー及び参加企業、農水省との意見交換会に参加し、農村地域で建設コンサルタントが関係者の連携を支援する現場の情報を収集した。なお、これらの事例を用いて、次年度のセミナーで環境配慮経営の考え方を紹介する予定である。

(6) 講演会の開催

2020年1月27日に、農林水産省農村政策推進室の大畠室長より「農村地域の活性化について」、パシフィックコンサルタンツ㈱環境・エネルギー部の梶井部長より「気候変動による影響と適応策」と題する講演会を行った。この講演会で中山間地域や農村は環境配慮を基軸とした地域経済の活性化を考える重要な地域であること、また、あらゆるインフラ分野の計画・設計において、気候変動による影響を理解し適応するための配慮が重要になっていくことを勉強した。

2. 次年度の活動について

(1) マネジメントセミナーでは、「環境配慮経営」に建設コンサルタントが取り組んでいくための考え方や活動について、実際に行われている事例を紹介しながら説明する。

(2) 「環境配慮経営」に関連する事例では、ヒアリングや現地見学を引き続き行い、会員企業に周知を図る。

(3) 環境、経済、社会の統合的向上では、具体的に理解できるような話題を集めて「講演会」を開催する。

(環境配慮専門委員会委員長 荒川 仁)